

シンガポール・テレコミュニケーションズ(Z74)

増収減益。コア事業の通信関連は競争激化により低調。AI・データセンター関連が成長牽引。STT GDC の買収でデータセンターインフラを強化。
SGX | 無線通信 | 業績フォロー

BLOOMBERG: ST SP | REUTERS STELSI

直近業績：2026 年 8 月 13 日発表の 1Q27 の四半期業績は、連結売上高が前年同期比 4.9% 増の 35.58 億 SGD（SGD はシンガポールドル）、営業利益が同 12.9% 増の 12.2 億 SGD、最終利益は同 71.6% 減の 8.1 億 USD で着地した。傘下企業別の業績では、モバイル端末販売や通信回線を販売する Singtel SG は売上高が同 3 % 減、EBIT（利子・税引き前利益：営業利益に相当）が同 2.1% 減の減収減益を記録。オーストラリア地域の通信回線販売を行う OPTUS は売上が前年同期比で 2.2% の減収となるも、EBIT は同 14% 増で着地した。これら 2 社はグループにおける基幹的な通信事業を担う。

これに対して、AI データセンターインフラ・クラウド事業を手掛ける NCS は前年同期比 9.7% の増収と同 29.1% の EBIT 成長を記録、AI におけるプラットフォームやアプリケーションレイヤーを手掛ける Digital InfraCo は売上高が同 18.7% 増の 1.27 億 SGD、EBIT が 26 百万 SGD の増収増益となった。これら連結子会社 2 社は、AI 用データセンター事業やソブリン AI 等への参入・拡張のために過去に買収した企業である。

このほか、持分法以下にある複数のアジアアフリカ地域の各企業からの貢献利益は 16% 増加。これら地域は SGD の強さ（すなわち現地通貨安）による逆風を受けており、そのマイナス影響がなければ 26% の増益であった。

投資論点・リスク：シンガポールは現在もバスケットペッグを用いており、為替レートは必ずしも米ドル固定ではない。このため財政拡張による米ドル安傾向は、米ドルにペッグされた国・地域、もしくは変動相場制であっても米国との関係が深い国・地域に位置する傘下企業の為替換算損につながる可能性がある。

Singtel と KKR が共同運用する投資ファンド（コンソーシアム）により、STT GDC（シンガポール・テクノロジー・テレメディア・グローバルデータセンター）を完全買収した。STT GDC のデータセンター網は東南アジア各国他、英国やドイツ、イタリア、中国やインドに配置されている。Singtel の AI インフラ国際展開を補強する。

業績推移

四半期業績		1Q26	4Q26	1Q27	ΔY/Y	2Q27F
売上高	(百万SGD)	3,392	3,688	3,558	4.9%	3,705
営業利益	(百万SGD)	1,082	444	1,222	12.9%	-
営業利益率	(%)	31.90	12.04	34.35	+2.44pts	-
当期利益	(百万SGD)	2,882	312	818	-71.6%	-
四半期EPS	(SGD)	0.17	0.02	0.05	-71.3%	0.05
通期実績推移 (3月期)		FY2024	FY2025	FY2026	CAGR	FY2027F
売上高	(百万SGD)	14,127	14,146	14,260	0.5%	14,936
当期利益	(百万SGD)	795	4,017	5,606	165.5%	3,167
希薄化後EPS	(SGD)	0.05	0.24	0.34	166.0%	0.19
通期配当	(SGD)	0.15	0.17	0.17	7.4%	0.20

*ΔY/Yは対前年比、CAGRは3カ年の複利年平均成長率

引用：企業公表値、ブルームバーグ（Fはブルームバーグ予想値）

フィリップ・キャピタル証券株式会社・リサーチ部
三角友幸

TEL：+81 3 3666 0707（直通）

E-mail：tomoyuki.misumi@phillip.co.jp

予想配当 (USD)	0.20
株価 (USD)	4.51
実績 PER (倍)	13.28
予想 PER (倍)	23.13
時価総額 (10億 USD)	74
企業価値 (10億 USD)	83
3ヵ月平均売買代金 (百万USD)	146

*配当予想と予想PERはブルームバーグ、各数値は8/26日終値による
*実績PERは過去12か月のEPS累計値に基づく

会社概要

シンガポール最大級の通信会社。モバイル通信や固定回線、高速ブロードバンドやインターネットプロトコルテレビ (IPTV) によるメディア配信なども行う。近年では、AI需要の増加に対応すべくクラウドサービスを拡充。データセンター計算資源を、シンガポールおよび東南アジア各国に向けて提供する。主要な傘下企業と事業分野は以下の通り。

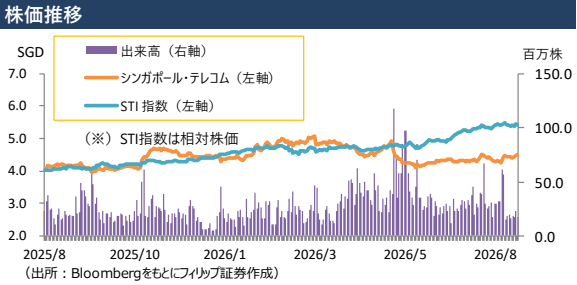
Singtel SG：モバイル通信、有線ブロードバンドネットワーク、IPTVを提供する中核会社。

OPTUS：オーストラリア地域における、モバイル端末の販売とインターネット通信サービスの提供を行う。

NCS：インターネットインフラ拡充を目的として、シンガポール政府によって設立された歴史をもつ。1997年にシンガポール・テレコムグループ傘下に入る。現在はAIデータセンターなどのクラウドコンピューティングサービスを提供する。

Digital InfraCo：シンガポールはじめ東南アジア各国に向けて、AI対応型データセンターを展開するプラットフォームのNxera、企業・公共機関向けのAIクラウドサービスを提供するプラットフォームであるRE:AIを展開。

STT GDC：米バイアウトファンドであるKKRとシンガポールテレコムとコンソーシアムによって完全買収されたデータセンター大手。



四半期業績詳細 (単位：百万 SGD) * 1 SGD = 125円				
傘下企業別業績	1Q26	4Q26	1Q27	ΔY/Y
Singtel SG				
売上高	929	940	901	-3.0%
EBIT	235	195	230	-2.1%
OPTUS				
売上高 (百万AUD)	2,014	2,194	1,970	-2.2%
EBIT (百万AUD)	133	137	152	14.3%
NCS				
売上高	733	811	804	9.7%
EBIT	79	83	102	29.1%
Digital InfraCo				
売上高	107	105	127	18.7%
EBIT	24	12	26	8.3%

* EBITはEarning before interest and tax (利子・税引き前利益) であり、営業利益に相当する
* OPTUSの業績のみ、オーストラリアドル (AUD) にて開示
引用元：企業公表値およびブルームバーグデータにもとづく

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元：フィリップ・キャピタル証券株式会社 〒103-0026 東京都港区虎ノ門 1-23-1 虎ノ門ヒルズ森タワー8 階

TEL:03-3666-2101 URL： <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者：リサーチ部 三角友幸

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

< 日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則（平 14.1.25）」に基づく表示 >

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。